

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：山口発の「水辺の小わざ」～将来に目を向けた取り組み～		
水系/河川名：粟野川水系粟野川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：185.9	整備計画流量：-m3/s	セグメント：2-1
事業：環境整備	事業開始年度	平成18年度
目標設定：定性的	段階	D(実施・施工時)
課題・目的(主な)：水環境改善、縦断的連続性の保全・再生・創出		
工法(主な)：魚道、落差工、帯工等の整備		
配慮事項(主な)：人材育成、その他		

背景・課題、目標設定

＜背景及び課題＞

山口県では「水辺の小わざ」と称した河川環境の将来を考えた取り組みを展開している。これは、流域全体の生態系をより豊かにするために、川の中のいろいろな生きものの一生や川全体の特性を把握し、小規模でありながらもその水辺にふさわしい効率的な改善策を様々な視点で工夫する山口独自の取り組みである。

この取り組みはデビューから約14年が経過し、これまで県内外を問わず多く活用されてきたが、デビューに携わった関係者は異動や退職などによって第一線から離れつつあり、当時の強い思いを維持しづらくなりつつある。

どんな良い取り組みであっても継続して使われなかったり、また時々に応じて発展していかなければ形骸化してしまう。それを危惧し、まだ活用されている今だからこそ、将来に目を向けて、伝承・発展を考えて対応していくことが、小わざを生み出した本県の使命と考えている。

＜目標＞

将来の水産業を担う地元大学生(水産大学校学生)や県の若手職員(土木系職員)を対象とした「人材育成」を行うことにより、県内外を問わず、「水辺の小わざ」の伝承や発展がなされること



水辺の小わざ

取り組み内容・対策例(1/2)

【取組1】県職員による「将来の水産業を担う大学生」への講義

- ・地元大学の「水産大学校」に在籍し、将来の水産業を担う大学生を相手に県職員が講義を毎年実施。
- ・近年ではこれまで行ってきた「多自然川づくり」の説明を拡充し、「水辺の小わざ」をテーマに加え、山口発であり、同校も生い立ちに関わった取り組みに興味・関心を持ってもらうことを目指した。



大学での講義のひとコマ

【取組2】専門家から熱い思いが聞ける、より実践的な「勉強会」の開催

- ・県の若手土木職員や研究室配属後の大学生を対象に、より実践的な内容で構成した勉強会を開催。
- ・課題のある魚道を対象として、問題点の確認、改善策の検討を行ったほか、各専門家からも意見を聞ける場とした。
- ・学生により「小わざ魚道模型」も作成され、参加者の理解や意識が高まった。



勉強会のひとコマ

取り組み内容・対策例(2/2)

【取組3】若者(大学生や県職員)が作業員として魚道改善工事に参加

- ・小わざ魚道への改良で生じる「手作業」の部分、水産大学校学生や若手県職員に実施してもらった。
- ・作業には学識者、漁協関係者なども参加し、異なるプロフェッショナルが集まって「みんなで考え、みんなで作る」という『水辺の小わざ』の思想がいかに大切で、かつ楽しいことであるかを若手に伝える場ともなった。

施工時の状況写真(下3点)



魚道内に石材を配置
(県職員・学生が作業中)



二次コンクリートの成形
(水の流れをイメージしながら手作業)



みんなで考え、みんなで作る
(小わざの本を手に関係者で協議しながら作業)

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

＜アピールポイント＞

・地元大学と連携し、研究室選択や就職活動開始前となる学生(2年次生)を主な対象として講義を実施することにより、「水辺の小わざ」や「河川環境改善」に興味を持ってもらうとともに、将来の進路選択に幅を持ってもらうこと(河川でも活躍の場があることを知ってもらうこと等)を目指した。

・若手県職員や大学の研究室配属学生(4年生)を対象とした勉強会において、学識者や漁協関係者、水辺の小わざの立ち上げ時の県職員などの専門家に講師になってもらい、「生態系保全」や「水辺の小わざ」にかける『熱い思い』が直接若手に伝わるようにした。

・学生や若手県職員を魚道改善の施工に参加させる(作業員として参加する)ことにより、『自分で作ったものが残るとい深い経験・思い出』を『しっかりと記憶と知識』に繋げることを狙いとした。これにより、将来、若者が様々な社会へ出ていく際に、個々のフィールドで「水辺の小わざ」を展開・発展してもらうことを期待した。

＜今後の対応方針＞

・地元大学との連携を継続するとともに、より興味・関心を持つことのできる内容に拡充していく。

・実際に工事を予定している堰を題材とした実践的な人材育成を継続するほか、設計段階から施工後のモニタリング段階まで一貫した学習の場も企画したい。

・県内外に広がる活用例の中から、これまでの成功事例、失敗と改善事例を集積したい。そして、ゆくゆくは改訂版発行を目指したい。

備考